

1世紀をめざして

大阪市立科学館 館長 加藤 賢一

随分、寒かった今年の冬も終りを告げ、いよいよ春本番となりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか？昨年2012年は大阪市立電気科学館が日本国内で最初の科学館として誕生し、そして初めてプラネタリウムが公開されて75年という節目の年で、ちょっとした話題となりました。この3月には作家織田作之助の生誕100年と合わせて記念イベントを開催しましたところ、たくさんの皆様にお集まり戴き、盛大な会とすることができたのは幸いでした。今後とも市民各位の後押しを戴き、次の節目の100年目に向けて歩んで参りたいと思います。どうぞ倍旧のご支援をよろしくお願い申し上げます。



昨年は山中伸弥さんがノーベル賞を受賞され、その人柄と相まって、大いに賞賛されました。この報に接し、研究の詳細はさておき、生物学・医学も物理学や化学のように物事を細分化して性質を明らかにし、その総体として個体を考えるという近代科学の方法論によって成功していることに改めて感服しました。もちろん、今に始まったわけではなく、細胞のような生命単位が発見されてからの必然的な流れなのでしょうが、仕組みを知ることによって生体膜のようなマクロなものを人工的に作れることまで見せつけられ、いささか衝撃的でした。

衝撃的と言えば、2月にロシアへ落下した隕石の映像もそうでした。想定どおりのイメージではありましたが、目の当たりにすると違います。こんな危険なものなら、落下する前に何とかならないのか、という疑問が出されていましたが、遺伝子の操作はできても秒速40kmほどで飛んでいる隕石を何とかするのは難しいようです。でも、できないとはっきり言えるのは、やはり科学の成果と言えるのでしょう。私たちと科学の可能性と限界が見えた興味深い話題でした。

さて、こんな科学のもろもろを素材にして味わってみようというサークルに科学館の友の会があります。今年で創立30年となりました。立ち上げ時は先輩博物館から「ようやくですか！」という感じでいろいろ教えて戴きましたが、その後輩も30歳！会員千名ほどに成長しています。今年は関連した企画も考えられているようで、楽しみです。

そんなことで、今年も科学に触れながら、時には苦しみつつも、いささかでも新しい知識を身につけたいなと思っています。100年目を目標に、皆さん、ご一緒にいかがですか？